



茶の薫る丘

開校47周年

令和8年10月1日発行

新人戦、お疲れ様でした。大会会場を回ると、会場がシーンと静かになる瞬間があります。会場の全員が、試合や競技に集中していることが伝わりました。また、涙を流すシーンでは、そっと寄り添う仲間の姿も印象的でした。

さて、いよいよ体育祭が迫ってきています。体育祭は、各学級・各学年の“まとまり”が試されます。練習は、大きな声と共に熱気がこもってきています。きっと良い体育祭になることと思います。皆さん、練習から本番まで、仲間を信じ、勝利を目指して、全力を尽くしましょう。そして、最後には、感動が味わえるようにしましょう！

「勉強」を好きになるには？

さて、「勉強」がどうしてもやる気にならないという人は、当然多いと思います。また、勉強以外でも、「やらなければいけない」とわかっていても、なかなかはかどらないなんてことは、誰にだってあるはず。そんな皆さんが、自分の将来に向け、どのように心がけて生活していけば良いのか、少し視点を先に置いて、お伝えしたいと思います。

まずは、今回のお話の主人公である稲盛和夫さんという方を紹介します。稲盛さんは、京セラやKDDIを創業し、それぞれを大企業に成長させた人物です。また、JAL(日本航空)が倒産した際、会長として就任し、僅か2年8カ月で再上場へと導いた人物です。近年の日本経済に大きく貢献した人物、いわゆる「スゴイヒト」とも言えます。このような実績を残した稲盛さんですが、社会人になった当初は、当時入社した会社にも仕事にも、そして、社会情勢にも、馴染めず、毎日鬱屈した日々を送っていたそうです。新卒社員(大学(高校)を卒業してすぐに就職した人間)の3割が3年以内に離職すると言われて久しいのですから、当時の稲盛さんも「会社を退社」「転職」という道が当然あったと思います。実際、そう考えたそうです。ですが、やはり将来「ことを為す(実績を残す)」稲盛さんは、違うのです。この稲盛さんの当時については、2018年のある月刊誌のインタビューアールとの対談で語られています。その内容を、以下に紹介します。他の人とどう違うのかをお読みください。

ある日、稲盛さんは「こんな生活をしていても仕方がない!」と意を決します。ここまでは、誰もが思うことです。その次です。何と稲盛さんは、「自分は素晴らしい会社に勤めているのだ。素晴らしい仕事をしているのだ。」と思うことにしたそうです。無理やり、自分でそう思い込み、しばらく仕事に励んだそうです。

稲盛さん曰く、「すると不思議なもので、あれほど嫌だった会社が好きになり、仕事が面白くなってくるではありませんか。通勤の時間が惜しくなり、布団や鍋釜を工場に持ち込み、寝泊まりして仕事に打ち込むようになります。仕事が楽しくてなくなりました。そのうちに一つの部署のリーダーを任され、赤字続きの会社で唯一黒字を出す部門にまで成長させました。」と語っています。

稲盛さんは当時のご自身の体験を踏まえて、続けてこう言っています。

「今の若い人たちの中に、自分が望んでいる道を選ぶことができなかった人がいたとしても、今ある目の前の仕事に脇目も振らず、全身全霊を懸けることによって、必ずや新しい世界が展開していくことを理解して欲しいですね。ですから、不平不満を漏らさず、今自分がやらなければならない仕事に一所懸命打ち込んでいただきたい。それが人生を輝かしいものにしていく唯一の方法と言っても過言ではありません。」

どうですか？ 話が、就職してからの会社や仕事の内容で、自分たち中学生には関係ないと思っておしまいですか？ ですが、会社は「学校」、仕事は「勉強」として捉えると、見方が変わってきませんか？ 「仕事」は、「勉強」以上に「やりたくないこと」でも絶対的に「やり通すこと・成果を出し続けること(もちろん法的に逸脱しないことが条件)」が要求される場面も多いですし、「もしやらない(できない)」ならば、「仕事」は他の人に回されます。

結論から言うと、今現在、皆さんが、「勉強」に対してどのように対応するのが重要で、将来の「仕事」への姿勢につながってくるということなのです。

皆さんにとっての「仕事」=「勉強」をする場である「会社」=「黒須中学校」は、どうでしょう。私は、挨拶や掃除を見ていて、よい「学校」だと感じています。後は、皆さんが、「仕事」となる「勉強」をどう考えるかです。「自分は勉強が好きなんだ。勉強が好きなのはきっと大きく成長できるんだ。」と思って生活することで、きっと、皆さんも稲盛さんと同じ経験をすることができると思います。すると、将来の「仕事」にも影響しますね。

この対談で、稲盛さんが最後に語られた言葉も印象的です。「やっぱり人生で一番大事なものの1つは、どんな環境にあらうとも真面目に一所懸命生きること。それともう1つは、人間は常に“自分がよくなりたい”という思いを本能として持っていますけれども、やはり利他の心、皆を幸せにしてあげたいということ強く自分に意識して、それを心の中に描いて生きていくことです。」と締めくくっています。

皆さんは、今、どんな感想を持ちましたか？ 皆さんの今後に役立つと幸いです。
最後にこの詩を送ります。

校長

やる気を出すには？

やる気を出すには「まず始める」ことが重要。まず始めるためにはどうするか。

それには徹底的にハードルを下げるのが重要だ。

始めることの難しさは、いろんな物理の比喻が用いられてきた。

車輪は回り始めるときにいちばん大きな力が必要で、一度回転しさえすれば、それを続けるのに大きな力はいらない。

電車は動くときだけモーターを使って、あとは惰性だ。

ロケットが発射直後の数分で使う燃料は、その後の80万kmより多い。

英語を勉強し始めたときは、何も聞き取れずに苦しいものだが、だんだんわかるころが増えていけば楽しくなるようになる。

だから車輪が動き出すいちばん大きな力が必要で、できるだけ邪魔を取り除くこと、道に転がっている石ころをできるだけ取り除いておくことが重要になる。

「ぼくたちは習慣で、できている。」佐々木典士 著
WANIBOOKS 45(5)

8/21～ 全国相撲選手権出場（団体・個人）



9/1 2学期始業式代表生徒（放送室から）



9/1 2学期避難訓練 地震から火災への対応



9/2 新しい食器で給食 美味しい！嬉しい！



9/4 相撲部全国大会市長表敬訪問



9/15 1年生非行防止教室 真剣に学びました！



2学期が始まって、1か月が過ぎました。学校生活のリズムもしっかり整い、生徒たちの活気に満ちた声が響き渡っています。先週からは体育祭練習が始まりました。今年も体育委員を中心に、3年生がリーダーシップを発揮してくれています。

「上級生が下級生の見本になる」

中学生としての正しい姿が今年も引き継がれています。「第47回黒須中学校体育祭」は、10月10日（土）に予定されています。どうぞ生徒のがんばる姿をご覧ください。